



あなたの思いやりを

公益社団法人 被害者支援センターやまなし だより

第15号

平成24年3月

自助グループ ゆるらが発足

まず遺族2人が参加

当センターは、平成19年4月に開設されて以来、カウンセリング、各種相談、付き添い支援、広報啓発活動などのきめ細かな支援活動を継続し、民間の被害者支援団体として着実な歩みとともに実績を残してきましたが、開設当初からの目標の一つだった被害者自助グループを、平成24年1月23日、設立することができました。

事件・事故などで大切な家族を失った被害者遺族同士が、その現実とともに向き合い、お互いに支え合い励まし合う中から問題の解決を図ろうとする場を提供するもので、山梨県内では初の取り組みとなります。

初回の23日には、ともに殺人事件で30年前に母親を亡くした男性と6年前に夫を亡くした女性が参加。ファシリテーターとして当センターの佐々木由紀事務局次長の進行のもと、それぞれの事件の概要を説明、共通部分を確認した後、直後の感情や加害者に対する思い、マスコミに取材されて感じたことなどについて1時間ほど語り合いました。今後も、月に1度のペースで開いていきます。また、パンフレットを配布し、参加者を増やしていく予定です。



●グループの愛称とロゴマーク

ゆるら



張り詰めた気持ちをゆるめ、リラックスして話し合える場所・時間という意味を込めた「ゆる」と、山梨の方言「～ら」、また複数の人を表す「等(ら)」を合成した造語です。

ハートのマークを基調にしました(下半分の抜けている形)。被害者ら(3つの円=頭部)が集まり、手を取り合っている(ハートをとりにく形)イメージです。



理事会

平成23年度 理事会を開催

平成24年3月5日(月) 甲府市・ぴゅあ総合会議室

当センターは、3月5日(月)午前10時から甲府市朝気のぴゅあ総合会議室で、本年度4回目(うち書面による見なし決議の理事会2回)となる理事会を開催しました。理事会では、竹井清八理事長のあいさつに

始まり、議長を選出し議事に入りました。

事務局より平成23年度の「収支補正予算」、平成24年度の「事業計画」、「収支予算」等の案と、「情報管理規程の改正」などについて協議されました。

平成23年度 補正予算

(単位:千円)

		予算額	補正額	補正後予算額
収入	会費収入	3,960	60	4,020
	寄付金収入	802	-36	766
	補助金等収入	10,335	37	10,372
	雑収入	3	6	9
収入合計		15,100	67	15,167
支出	事業費	11,957	-1,082	10,875
	管理費	3,014	1,228	4,242
	予備費	129	0	129
当期支出合計		15,100	146	15,246
当期収支差額		0	-79	-79
次期繰越金		1,200	784	1,984

平成24年度 予算案

(単位:千円)

		予算額
収入	会費収入	4,100
	寄付金収入	502
	補助金等収入	9,453
	雑収入	3
	前期繰越額	1,800
収入合計		15,858
支出	事業費	11,701
	管理費	4,028
	予備費	129
当期支出合計		15,858
当期収支差額		0
次期繰越収支差額		0

平成24年度 事業案

事業名	実施事項	実施時期
会務運営	社員総会	6月
	理事会	総会前、及び必要に応じて開催する
相談活動の推進	電話相談	通年
	メール相談	
	面接相談	
	専門相談	
直接支援活動の推進	付き添い支援	通年
	日常生活への支援	
間接支援活動の推進	間接支援	通年
	自助グループへの支援	
ボランティア支援員の養成・育成	新規募集と養成講座	随時募集
	育成講座(研修会)	通年
相談体制の充実	専門相談員の委嘱	通年
	代理被害の防止	
広報啓発活動	設立後満5周年記念事業	
	広報活動(機関誌発行)	3回
	広報活動(チラシ等配布)	通年
	啓発活動(イベント等に参加)	
	啓発活動(講演会等)	11月
調査研究活動	調査活動及び研究活動	通年



「生命のメッセージ展」が開かれました

当センターなどが協力し、NPO法人いのちのミュージアム(東京都日野市)が主催する「生命(いのち)のメッセージ展」(内閣府など後援)が、3月21日から23日まで上野原市役所1階通路で開かれました。

この展示は、造形作家で、自らも飲酒、無免許運転の暴走車によって当時19歳の一人息子を失った同法人代表理事の鈴木共子さんが発案したもので、交通事故や犯罪の被害者をかたどった等身大の人型(ひとがた)パネルに写真や家族の言葉、履いていた靴などを添えて展示するものです。

理不尽に命を奪われた者の存在に思いを巡らし、命の大切さを訴えています。現在141家族が参加、全国で既に100回以上の展示が行われており、県内では初めて開催されました。

また、24日は同市もみじホールで、息子の事故をきっかけに「危険運転致死傷罪」の成立に尽力した鈴木代表理事をモデルにした映画「0(ゼロ)からの風」の上映と同代表理事による基調講演「ゼロからの風を受けて輝いて生きる」が開かれました。

当センターでも展示前日の20日に会場で準備、24日の講演会と上映会に参加し、お手伝いさせていただきました。当センターとしては、今後も「いのちのミュージアム」の活動に協力していきたいと考えています。

上野原市役所での展示の様子



もみじホールで講演する鈴木代表理事



情報提供を呼びかけるチラシを配布

ひき逃げの犠牲となった平野さんのご両親と共に

2月25日 甲斐市 国道20号線で

昨年2月25日、甲斐市志田の国道20号線で、近くに住む会社員・平野隆史さん(佐賀県出身・当時24歳)がひき逃げに遭い死亡しました。事件から1年が経過しましたが、逃走車両や加害者を特定できる有力な情報は得られず、依然容疑者は逮捕されていません。韮崎署では、「どんなささいな情報でも連絡を」と呼びかけていましたが、事件から1年後の2月25日未明から、事件に関する情報の提供を呼びかけるチラシを配布しました。

チラシ配布には、隆史さんのご両親もご実家の佐賀県小城市から駆けつけ、当センターからも5人が



参加し、お手伝いをさせていただきました。

隆史さんのご両親の悲しみと憤りは消えることなく、「一刻も早く自首してほしい」と声を振り絞っていました。

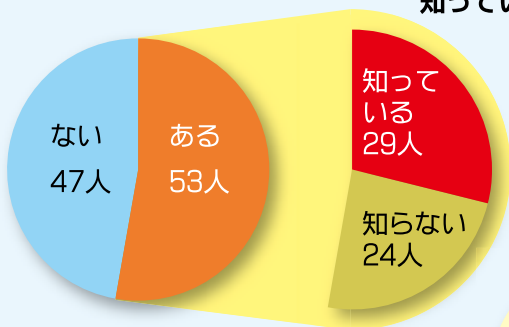
南アルプス市「市民活動フェスタ」に出展



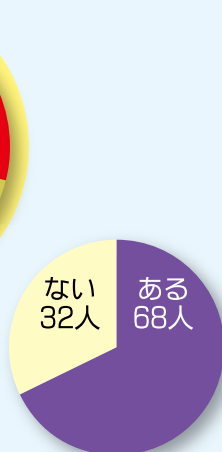
会場で100人アンケート実施

当センターでは3月11日、南アルプス市櫛形総合体育館で開かれた「市民活動フェスタ」に出展し、被害者支援活動を啓発しました。会場では「防災コーナー」の中の南アルプス署のブースの一角で、同署職員の協力を得ながら啓発用のチラシなどを配布しました。また、来場者を対象にアンケート調査も行いました。アンケートは100人の方々にご協力をいただきましたが、結果はほぼ横ばい状態でした。

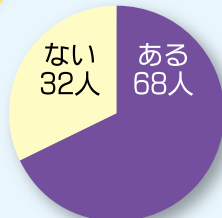
●「支援センターやまなし」を聞いたことがある？



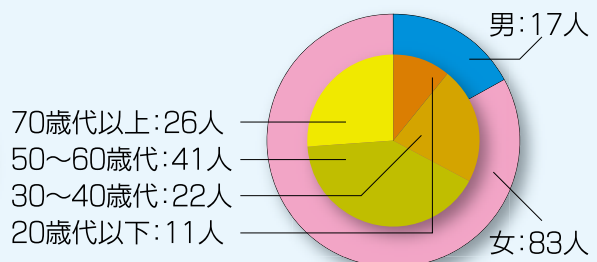
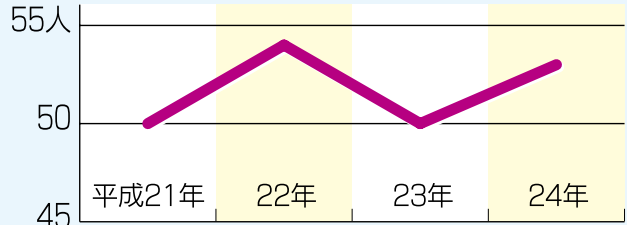
●どんな支援をするか知っている？



●被害遭遇時に相談する人や機関がある？



●「支援センターやまなし」を聞いたことがある人の推移



ボランティア支援員「第5期生」養成講座を開催



開講式

ボランティア支援員「第5期生」候補者を養成する研修講座を実施しました。平成23年12月11日から3月4日までの期間中、計7日間にわたって被害者支援に必要な法律や精神的症状などの基礎知識や、臨床心理士によるワークショップなどを行い支援員を養成しました。第5期生はこの4月から支援員として活動していただきます。ご活躍を期待しています。

担当いただいた講師の皆さま、ありがとうございました。



修了式



山口勝弘 副理事長
(県臨床心理士会会長)



若月誠 犯罪被害者支援室長
(県警本部警務部)



伊藤美佳 講師
(臨床心理士)



百瀬裕三 講師
(臨床心理士)



稲永澄子 講師
(臨床心理士)



窪内節子 講師
(山梨英和大学副学長)



二階堂郁美 講師
(甲府地方検察庁)



田邊護 講師
(法テラス山梨)



石川恵 講師
(県弁護士会)



大澤英二 講師
(県ボランティア協会会長)



山角駿 副理事長
(県精神科病院協会会長)



菅弘康 講師
(臨床心理士)



武者吉英 講師
(県産婦人科医会前会長)



小川優子 講師
(臨床心理士)



小野忠則 専務理事
(当センター)



佐々木由紀 講師
(犯罪被害相談員)



岩間常美氏
(特別講師)



賛助会員を募集しています!!

当センターの運営は皆さまからの
浄財を頼りとしております

当センターの運営は、山梨県及び県内市町村の「助成金」と法人(各種団体・事業所)、個人の皆様方の「会費」「賛助会費」「寄付金」等によって賄われておりますが、収益事業を行っていないため、財政基盤が十分ではないのが実情です。このため、被害者支援活動の必要性や当センターの果たす役割の重要性を広く県民に訴え、多くの方々の理解をいただき浄財を求めているところです。趣旨にご賛同いただける方のご入会やご寄付は下記の要領で受け付けております(1口以上何口でも結構です)。一人でも多くの方々にご協力をいただき、当センターの運営や活動にご支援を賜りますよう、よろしくごお願いいたします。

当センターは、財政基盤が脆弱のため、広く「犯罪被害者支援寄付金付き自動販売機」の設置をお願いしております。缶ジュース等の売り上げの一部をご寄付いただくものです。自動販売機にはその趣旨を示すステッカーが貼られます。自動販売機の契約更新時、新規設置の際などに、被害者支援用自動販売機の導入をお願いいたします。

**あなたの思いやりが被害者を支えています。
ご協力感謝申し上げます。**

(敬称略・順不同) (平成23年12月1日～平成24年3月31日)

寄 付 者

- 飯野 章元
- 山本 保彦
- 勝村 忠治
- (株)フローレン
- (有)小沢自動車
- (有)パンの家エム・ワン
- 昭和産業(株)
- 甲府警察署募金箱
- 南甲府警察署設置募金箱
- 南アルプス警察署設置募金箱
- 韮崎警察署設置募金箱
- 北杜警察署設置募金箱
- 鯉沢警察署設置募金箱
- 南部警察署設置募金箱
- 笛吹警察署設置募金箱
- 富士吉田警察署設置募金箱
- 上野原警察署設置募金箱
- 免許課警察署設置募金箱
- 当センター設置募金箱

賛助会員

個人会員	1口	2,000円(年間)
法人会員・団体会員	1口	10,000円(年間)

寄 付

個人寄付	1口	1,000円
法人・団体寄付	1口	10,000円

お振込先

●銀行振り込みの場合

山梨中央銀行 県庁支店 普通預金 口座番号662535

受取人

(フリガナ) シャ)ヒガイシャシエンセンターヤマナシ
(社)被害者支援センターやまなし

●郵便振替の場合

00270-3-114370

(社)被害者支援センターやまなし



犯罪・交通事故等の被害で
悩んでいませんか?
私たちにお電話ください

電話相談
相談無料

フジは ハローニコニコ
☎055(228)8622

受付: 10:00~16:00(土・日・祝日・年末年始は除く)

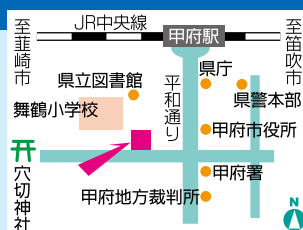
※秘密は厳守されます。相談の内容は一切外に漏れることはありません。
※お名前、話したくないことを無理にお聞きすることはありません。



お問い合わせ先

公益社団法人被害者支援センターやまなし

〒400-0031 甲府市丸の内2-32-11 県医師会館3F
TEL・FAX055(228)8639
URL <http://www6.ocn.ne.jp/~shienyam/>
MOBILE <http://www6.ocn.ne.jp/~shienyam/m/>
Email sien-yamanashi@comet.ocn.ne.jp



この広報紙はボートレースの交付金による日本財団の助成金を受けて作成しました。